

# 在宅看護論

目標Ⅰ. 在宅看護における対象と基盤となる概念、安全と健康危機管理について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
1 在宅看護の対象と基盤となる概念	A 在宅看護の対象と背景	a 国民の価値観	基礎看護学 [4] (臨床看護総論) : 第1章 C-3 「在宅における看護」 (p.51~55) 在宅看護論 : 第1章 A 「在宅看護の目ざすもの」 (p.10~16)、第2章 C-1 「在宅看護の対象者としての家族」 (p.39~40)、第5章 A-1 「療養者の多様な生活と価値観」 (p.112) 社会保障・社会福祉 : 第4章 A-1 「介護保険制度創設の背景」 (p.90)
		b 疾病がある者と家族	基礎看護学 [4] (臨床看護総論) : 第1章 B-2-2 「健康問題を持つ人とその家族への看護」 (p.40~45) 在宅看護論 : 第2章 「在宅看護の対象者」 (p.26~50) 家族看護学 : 第2章 C-2 「家族のセルフケア機能」 (p.51~55)
		c 障害がある者と家族	基礎看護学 [4] (臨床看護総論) : 第1章 C-3-1 「在宅における対象者と家族の健康上のニーズ」 (p.51~52) 在宅看護論 : 第2章 「在宅看護の対象者」 (p.26~50) 家族看護学 : 第2章 C-2 「家族のセルフケア機能」 (p.51~55)
		d 疾病や障害がある者の社会参加	在宅看護論 : 第1章 A 「在宅看護の目ざすもの」 (p.10~16)、第5章 B-2-1 「基本的な情報集の項目と情報の把握」 (p.118~119) 社会保障・社会福祉 : 第7章 A-2 「高齢者福祉の施策」 (p.169~173)、B-2 「障害者福祉の理念」 (p.181~184)、B-5 「障害者福祉の関連施策」 (p.193~203) リハビリテーション看護 : 第2章 C-3-7 「社会参加への援助」 (p.83~84)
	B 在宅療養を支援する仕組み	a 在宅医療・介護に関する仕組み	在宅看護論 : 第4章 「在宅看護にかかわる法令・制度とその活用」 (p.76~110) 社会保障・社会福祉 : 第4章 B 「介護保険制度の概要」 (p.95~116)
		b 地域包括ケアシステム	老年看護学 : 第2章 A-1-1 「保健医療福祉制度の変遷」 (p.36~40) 在宅看護論 : 第1章 B-1 「超高齢多死社会の進展と地域包括ケア」 (p.17~20) 公衆衛生 : 第7章 C-6 「地域の特性に応じた地域包括ケアシステム」 (p.197~200) 社会保障・社会福祉 : 第4章 B-1 「制度の基本理念」 (p.95)
	C 在宅看護における権利の保障	a 在宅療養者の権利擁護〈アドボカシー〉(成年後見制度)	在宅看護論 : 第5章 D-5 「成年後見」 (p.163~164) 社会保障・社会福祉 : 第4章 B-8 「利用者の権利擁護」 (p.115~116)
		b 虐待の防止	在宅看護論 : 第5章 D-6 「虐待の防止」 (p.165~166)
		c 個人情報の保護と管理	在宅看護論 : 第5章 D-3 「個人情報の保護」 (p.159~162)
		d サービス提供者の権利の保護	在宅看護論 : 第5章 D-7 「サービス提供者の権利擁護」 (p.166~167)
	D 在宅療養者の自立・自律支援	a 価値観の尊重と意思決定支援	在宅看護論 : 第2章 B 「住まい方と健康」 (p.36~39)、C-4-1 「情報提供と意思決定支援」 (p.47)、第3章 B-1 「患者・家族の意思決定支援と調整」 (p.56~57)、C-2 「自立・自律支援」 (p.70~71)、第5章 A-1 「療養者の多様な生活と価値観」 (p.112)
		b QOLの維持・向上	在宅看護論 : 第1章 A-4 「あらゆる面からQOLを考える」 (p.14~16)、第3章 C 「在宅看護の基本となるもの」 (p.69~72)
		c セルフケア	成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第7章 B-2 「セルフケアとセルフマネジメント」 (p.224~225) 在宅看護論 : 第1章 B-2 「対象者のケアニーズに応じた在宅看護の提供」 (p.20~23)、第3章 C-2 「自立・自律支援」 (p.70~71)
		d 社会参加への援助	在宅看護論 : 第1章 A-4 「あらゆる面からQOLを考える」 (p.14~16)、第3章 C 「在宅看護の基本となるもの」 (p.69~72)、第6章 B-7 「コミュニケーション

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
			<p>ンの支援」(p.222～224)</p> <p>社会保障・社会福祉：第7章 A-2「高齢者福祉の施策」(p.169～173)、B-2「障害者福祉の理念」(p.181～184)、B-5「障害者福祉の関連施策」(p.193～203)</p> <p>リハビリテーション看護：第2章 C-3-7「社会参加への援助」(p.83～84)</p>
	E 在宅における病状・病態の経過の予測と予防	a 病状・病態の経過の予測	在宅看護論：第3章 C-1「症状マネジメントとケア」(p.69)、第5章 A-3「時間的な広がりへの着目」(p.113～114)
		b 予測に基づく予防	在宅看護論：第5章 C「療養上のリスクマネジメント」(p.137～158)
		c 在宅での感染予防対策	在宅看護論：第5章 C-5「感染の防止」(p.148～152)
	F 生活の場に応じた看護の特徴と看護の役割	a 外来看護	在宅看護論：第3章 A-1「外来看護」(p.52～53)
		b 訪問看護	在宅看護論：第3章 A-2「訪問看護」(p.53～54)
		c 入所施設での看護	在宅看護論：第3章 A-3「施設での看護」(p.54～55)
		d 通所施設での看護	在宅看護論：第3章 A-4「通所サービスでの看護」(p.55～56)
	G 在宅療養者の家族への看護	a 家族の介護力のアセスメントと調整	在宅看護論：第2章 C「家族」(p.39～50)、第5章 B-2-3「情報の整理とアセスメントの展開方法」(p.121～131) 人間関係論：第11章 C-2「在宅療養中の患者と家族」(p.243～245) 家族看護学：第4章 B-2「家族アセスメント」(p.129～139)
		b 家族関係の調整	在宅看護論：第2章 C-4-4「家族関係の調整」(p.48) 人間関係論：第11章 C-2「在宅療養中の患者と家族」(p.243～245) 家族看護学：第4章 B-5「家族看護の実施」(p.147～161)
		c ケア方法の指導	在宅看護論：第2章 C-4-2「療養・介護指導」(p.47)
		d 介護者の健康	在宅看護論：第2章 C-1-1「療養者と家族が“ともに生きる”ための支援」(p.40～41)、第5章 B-2-3「情報の整理とアセスメントの展開方法」(p.121～131)
		e レスパイトケア	在宅看護論：第2章 C-5-3「レスパイトケア」(p.49～50)
2 在宅看護における安全と健康危機管理	A 日常生活における安全管理	a 家屋環境の整備	在宅看護論：第5章 B-2-3「情報の整理とアセスメントの展開方法」(p.121～131)、C-2「環境の整備による安全の確保」(p.139～145)
		b 転倒・転落の防止	老年看護学：第5章 A-2「転倒のアセスメントと看護」(p.134～141) 老年看護 病態・疾患論：第2章 D-1「転倒・骨折」(p.73～77) 在宅看護論：第5章 C-2-1「転倒予防に関する教育と環境整備」(p.139)、C-2-2「転倒事故の予防」(p.140～141)、C-2-3「転落事故の予防」(p.141～142)
		c 誤嚥・窒息の防止	在宅看護論：第5章 C-2-5「窒息の予防」(p.143～144)、第6章 B-2「食生活・嚥下に関する在宅看護技術」(p.188～195) 看護の統合と実践 [2] (医療安全)：第4章 C「摂食中の窒息・誤嚥事故防止」(p.170～176)
		d 熱傷・凍傷の防止	成人看護学 [12] (皮膚)：第5章 D-2-1「熱傷」(p.114～116)、D-3-1「凍傷」(p.116～117)、第6章 F-4「熱傷患者の看護」(p.212～214) 在宅看護論：第5章 C-3「身体損傷の防止」(p.145)
		e 熱中症の予防	老年看護 病態・疾患論：第2章 B-3「熱中症」(p.54～57) 在宅看護論：第5章 C-2-4「熱中症の予防」(p.142～143)
		f 閉じこもりの予防	老年看護 病態・疾患論：第2章 F-5「閉じこもり」(p.86) 在宅看護論：第1章 B-2「対象者のケアニーズに応じた在宅看護の提供」(p.20～22)、第5章 B-4「移動・移乗に関する在宅看護技術」(p.200～210)、第6章 B-7「コミュニケーションの支援」(p.222～224)
		g 独居高齢者の防災	在宅看護論：第5章 C-2-6「火災の予防」(p.144～145)
	B 災害時における在宅療養者と家族の健康危機管理	a 在宅療養者・家族への防災対策の指導	在宅看護論：第5章 C-6「災害に対する準備と対応」(p.153～158) 看護の統合と実践 [3] (災害看護学・国際看護学)：第2章 E-6「慢性疾患患者に対する災害看護」(p.143～146)
		b 医療機関との連携による医療上の健康危機管理	在宅看護論：第5章 C-6「災害に対する準備と対応」(p.153～158) 看護の統合と実践 [3] (災害看護学・国際看護学)：第2章 E-6「慢性疾患患者に対する災害看護」(p.143～146)

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
		c 福祉機関との連携による生活上の健康危機管理	在宅看護論：第5章 C-6「災害に対する準備と対応」(p.153~158) 看護の統合と実践 [3] (災害看護学・国際看護学)：第2章 E-6「慢性疾患患者に対する災害看護」(p.143~146)
		d 行政(市町村・消防署・警察等)との連携	在宅看護論：第5章 C-6「災害に対する準備と対応」(p.153~158) 看護の統合と実践 [3] (災害看護学・国際看護学)：第2章 E-6「慢性疾患患者に対する災害看護」(p.143~146)
3 訪問看護の概要	A 訪問看護制度の理解	a 訪問看護の変遷	在宅看護論：第4章 A「訪問看護制度の創設と発展経緯」(p.76~78)、付章 C「保健・医療・福祉の動向と訪問看護の歴史」(p.418~421)
		b 訪問看護の提供方法と種類	在宅看護論：第4章 D「訪問看護の制度」(p.90~98)
		c 訪問看護制度の課題	在宅看護論：第1章 A「在宅看護の目ざすもの」(p.10~16)
	B 訪問看護制度の法的枠組み	a 介護保険法	老年看護学：第2章 B-1-2「介護保険制度の整備」(p.41~48) 在宅看護論：第4章 B-1「介護保険制度」(p.78~79)、C「介護保険制度」(p.84~91) 社会保障・社会福祉：第4章 B-5「保険給付」(p.98~109) 看護関係法令：第7章 A-4「介護保険法」(p.199~206)
		b 健康保険法	在宅看護論：第4章 B-2「医療保険制度」(p.80) 社会保障・社会福祉：第3章 C-2-3「訪問看護」(p.69) 看護関係法令：第7章 A-1「健康保険法」(p.191~196)
		c 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律(障害者総合支援法)	精神看護学 [1] (精神看護の基礎)：第7章 E-1-4「精神科看護の基本となる法律」(p.319~320) 在宅看護論：第4章 B-3「障害者総合支援法」(p.80~81) 社会保障・社会福祉：第7章 B-4-3「障害者総合支援法の成立」(p.189~192) 看護関係法令：第8章 D-2「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」(p.225~228)
	C 訪問看護サービスの仕組みと提供	a 訪問看護ステーションの開設基準	在宅看護論：第4章 D-2「訪問看護ステーションに関する規程」(p.94~95)
		b 訪問看護サービス開始までの流れ	在宅看護論：第4章 D-3「訪問看護の利用までの手順」(p.95~96)
		c 訪問看護サービスの展開	在宅看護論：第4章 D「訪問看護の制度」(p.90~109)
		d 訪問看護サービスの質保証	在宅看護論：第4章 E-3「訪問看護サービスの質保証」(p.99)
e 訪問看護サービスの管理・運営		在宅看護論：第4章 E-2「訪問看護ステーションの管理・運営」(p.98~99)	

## 目標Ⅱ. 在宅療養者の特徴を理解し、病期や状況に応じて展開する在宅看護について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
4 在宅療養生活を支える看護	A 食事・栄養	a 食事摂取能力(嚥下・消化・吸収能力)	在宅看護論：第6章 B-2-2「食生活・嚥下に関するアセスメント」(p.189~191) 栄養学：第9章 G-3「高齢者の在宅療養における栄養管理」(p.238~239)
		b 食事内容の選択、食材の調達の方法に関する援助	在宅看護論：第6章 B-2-3「食生活・嚥下への援助のポイント」(p.192~195) 栄養学：第9章 G-3「高齢者の在宅療養における栄養管理」(p.238~239) 栄養食事療法：第2章 A「病人食の分類と特徴」(p.14~23)
		c 栄養を補う食品の種類と選択方法に関する援助	在宅看護論：第6章 B-2-3「食生活・嚥下への援助のポイント」(p.192~195) 栄養学：第5章 C-19「特別用途食品」(p.103~104)、第9章 G-3「高齢者の在宅療養における栄養管理」(p.238~239) 栄養食事療法：第2章「栄養食事療法の実際」(p.14~30)
		d 食事摂取能力低下時の援助	老年看護学：第5章 B-4「食生活の支援」(p.155~161) 老年看護 病態・疾患論：第2章 D-4「嚥下障害」(p.82~86) 在宅看護論：第6章 B-2-3「食生活・嚥下への援助のポイント」(p.192~195) 栄養学：第9章 F-8「咀嚼・嚥下障害患者の食事療法」(p.230~231)

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
			栄養食事療法：第3章F「摂食・嚥下障害」(p.40～43)
		e 口腔ケア	成人看護学 [15] (歯・口腔)：特論「口腔ケア」(p.256～274) 老年看護学：第5章B-4「食生活の支援」(p.155～161) 老年看護 病態・疾患論：第4章M-2「口腔ケア」(p.261～262)、3「高齢者の口腔ケアの実際」(p.262～264) 在宅看護論：第6章B-2-3「食生活・嚥下への援助のポイント」(p.192～195)、B-5-3「在宅における清潔の援助に関するポイント」(p.212～216)
	B 排泄	a 排泄の状況と障害	老年看護学：第5章C「排泄」(p.161～172) 老年看護 病態・疾患論：第2章D-2「排尿障害(尿失禁)」(p.77～81) 在宅看護論：第6章B-3-2「排泄に関するアセスメント」(p.196～197)
		b 排泄補助用具の種類と選択方法	老年看護学：第5章C「排泄」(p.161～172) 在宅看護論：第6章B-3-2「尿失禁の予防と工夫」(p.198～199)
		c 尿失禁の予防と援助	老年看護学：第5章C「排泄」(p.161～172) 老年看護 病態・疾患論：第2章D-2「排尿障害(尿失禁)」(p.77～81) 在宅看護論：第6章B-3-2「尿失禁の予防と工夫」(p.198～199)
		d 便失禁の予防と援助	老年看護学：第5章C「排泄」(p.161～172) 在宅看護論：第6章B-3-6「便秘・便失禁の予防と工夫」(p.200)
		e 便秘の予防と援助	老年看護学：第5章C「排泄」(p.161～172) 老年看護 病態・疾患論：第2章D-3「便秘」(p.81) 在宅看護論：第6章B-3-6「便秘・便失禁の予防と工夫」(p.200)
		f ストーマケア	成人看護学 [5] (消化器)：特論「ストーマケア」(p.452～470) 在宅看護論：第6章C-3「ストーマ(人工肛門・人工膀胱)」(p.246～254)
	C 清潔	a 清潔の保持の状況	老年看護学：第5章D「清潔」(p.172～185) 在宅看護論：第6章B-5-2「清潔に関するアセスメント」(p.211～212)
		b 清潔の援助方法と自立支援	老年看護学：第5章D「清潔」(p.172～185) 在宅看護論：第6章B-5-3「在宅における清潔の援助に関するポイント」(p.212～216)
	D 移動	a 日常生活動作<ADL>・手段的日常生活動作<IADL>のアセスメント	老年看護学：第5章A「日常生活を支える基本的活動」(p.122～146) 在宅看護論：第5章B-2-3「情報の整理とアセスメントの展開方法」(p.121～131)、第6章B-4-2「移動・移乗に関するアセスメント」(p.202～204)
		b 日常生活動作<ADL>・手段的日常生活動作<IADL>の維持および向上のための援助	老年看護学：第5章A「日常生活を支える基本的活動」(p.122～146) 在宅看護論：第6章B-4-3「在宅における移動・移乗の援助に関するポイント」(p.204～210)
		c 移動時の安全確保	老年看護学：第5章A「日常生活を支える基本的活動」(p.122～146) 在宅看護論：第6章B-4-3「在宅における移動・移乗の援助に関するポイント」(p.204～210)
		d 移動補助用具の種類と選択方法	老年看護学：第5章A「日常生活を支える基本的活動」(p.122～146) 在宅看護論：第6章B-4-3「在宅における移動・移乗の援助に関するポイント」(p.204～210)
5 在宅療養者の病期に応じた看護	A 日常生活動作<ADL>の低下および疾病の再発の予防が必要な療養者	a 日常生活のアセスメントと環境整備	老年看護学：第5章A「日常生活を支える基本的活動」(p.122～146) 在宅看護論：第5章B-2「情報収集とアセスメント」(p.117～131) リハビリテーション看護：第2章C-2-2「日常生活活動(ADL)の評価」(p.61～67)
		b 在宅療養者と家族のセルフマネジメント力の維持・向上のための支援	在宅看護論：第2章A-4-4「生活習慣病の予防や疾病の悪化防止の支援が必要な状態」(p.36)、C-4「家族への支援」(p.47～48) リハビリテーション看護：第2章C-3-2「セルフケアの援助」(p.71～73)
		c 異常の早期発見と対応	在宅看護論：第5章C-1「在宅におけるリスクとは」(p.137～139)、第6章「在宅看護技術」(p.174～301) リハビリテーション看護：第4章A-6「再発作・転倒の予防と管理」(p.195～196)

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
		d 社会資源の活用・調整	在宅看護論：第4章F「ケアマネジメントと社会資源の活用」(p.100～104)
	B 急性期にある療養者	a 緊急性と重症度のアセスメント	基礎看護学 [4] (臨床看護総論)：第2章C「急性期における看護」(p.71～86) 老年看護学：第10章B-1「救急を受診する高齢者の特徴」(p.395～396) 救急看護学：第3章D「在宅療養における対応」(p.83～86)、第4章A-3「在宅急変時における周囲の状況確認と感染予防対策」(p.102)
		b 状態に合わせた対応・調整	老年看護学：第8章B-2「救命救急場面における看護師の役割」(p.397) 在宅看護論：第3章B-3-2「入院時における連携」(p.66～67)、第4章G-2「医師との連携」(p.106～107) 救急看護学：第3章D「在宅療養における対応」(p.83～86)、第4章A-3「在宅急変時における周囲の状況確認と感染予防対策」(p.102)
		c 急性症状への対応	基礎看護学 [4] (臨床看護総論)：第2章C「急性期における看護」(p.71～86) 在宅看護論：第4章G-2「医師との連携」(p.106～107) 救急看護学：第3章D「在宅療養における対応」(p.83～86)、第4章A-3「在宅急変時における周囲の状況確認と感染予防対策」(p.102)
		d 感染症(肺炎等)への対応	在宅看護論：第5章C-5「感染の防止」(p.148～152) 救急看護学：第4章A-3「在宅急変時における周囲の状況確認と感染予防対策」(p.102) 臨床薬理学：第4章E「感染徴候がある者に対する薬物の臨時投与」(p.277～283)
	C 慢性期にある療養者	a 慢性期の特徴を踏まえた状態のアセスメント	基礎看護学 [4] (臨床看護総論)：第2章D「慢性期における看護」(p.86～101) 成人看護学 [7] (脳・神経)：第6章A-5-2「在宅療養に対する援助」(p.238～239)、B-3「認知症患者の看護」(p.253～258) 在宅看護論：第7章A-3「在宅療養安定期」(p.310～311)
		b 状態に合わせた対応・調整	基礎看護学 [4] (臨床看護総論)：第2章D「慢性期における看護」(p.86～101) 在宅看護論：第2章A-4-2「継続的な支援が必要な慢性的な療養状態」(p.34～35)
		c 急性増悪の早期発見と対応	成人看護学 [1] (成人看護学総論)：第6章A-1-6「慢性病の急性増悪」(p.199～200) 在宅看護論：第6章「在宅看護技術」(p.174～301)、第7章A-4「急性増悪期」(p.311～312)
		d 社会資源の活用・調整	在宅看護論：第4章F「ケアマネジメントと社会資源の活用」(p.100～104)
	D 回復期(リハビリテーション期)にある療養者	a 在宅におけるリハビリテーション	在宅看護論：第3章A-4「通所サービスでの看護」(p.55～56)、第4章G「地域における多職種連携」(p.104～105)
		b 生活機能・日常生活動作(ADL)のアセスメント	在宅看護論：第5章B-2「情報収集とアセスメント」(p.117～131) リハビリテーション看護：第2章C-2-2「日常生活活動(ADL)の評価」(p.61～67)
		c 状態に合わせた対応・調整	在宅看護論：第2章A-4-2「継続的な支援が必要な慢性的な療養状態」(p.34～35) リハビリテーション看護：第2章C-3「援助方法」(p.70～84)
		d 合併症の予防と対応	在宅看護論：第2章A-4-2「継続的な支援が必要な慢性的な療養状態」(p.34～35) リハビリテーション看護：各章「合併症の予防と管理」
		e 居住環境のアセスメントと対応・調整	在宅看護論：第5章B-2「情報収集とアセスメント」(p.117～131)
		f 社会資源の活用・調整	在宅看護論：第4章F「ケアマネジメントと社会資源の活用」(p.100～104)
	E 終末期にある療養者	a 症状マネジメント	老年看護学：第8章「エンドオブライフケア」(p.348～358) 在宅看護論：第2章A-4-3「終末期ケアの必要な状態」(p.35～36)、第6章B-8「在宅におけるエンドオブライフケア」(p.224～232) 緩和ケア：第7章「身体的ケア」(p.116～193)、第8章「精神的ケア」(p.196～233)

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
		b 終末期緩和ケアの実際	老年看護学：第8章「エンドオブライフケア」(p.348～358) 在宅看護論：第6章B-8「在宅におけるエンドオブライフケア」(p.224～232) 緩和ケア：第1章C-3「在宅緩和ケア」(p.8～10)
		c 看取りの援助	老年看護学：第8章「エンドオブライフケア」(p.348～358) 在宅看護論：第6章B-8「在宅におけるエンドオブライフケア」(p.224～232)
		d 家族へのグリーフケア	老年看護学：第8章「エンドオブライフケア」(p.348～358) 在宅看護論：第6章B-8「在宅におけるエンドオブライフケア」(p.224～232) 公衆衛生：第7章C-8「地域コミュニティによる支えとは」(p.205～207) 人間関係論：第11章C-1「終末期患者と家族、遺族」(p.239～243) 緩和ケア：第11章D「遺族ケア」(p.286～290) 家族看護学：第5章C「終末期患者の家族看護」(p.212～226)
6 在宅療養において特徴的な疾病がある療養者への看護	A 小児の在宅療養者への看護	a 在宅療養継続のための療養者の健康危機管理	小児看護学 [1] (小児臨床看護総論)：第2章C「在宅療養中の子どもと家族の看護」(p.234～241) 在宅看護論：第2章A-4-2「継続的な支援が必要な慢性的な療養状態」(p.34～35)
		b 療養者の自立支援とQOLの維持・向上(尊厳保持、成長、権利擁護<アドボカシー>を含む)のための在宅療養支援	小児看護学 [1] (小児臨床看護総論)：第2章C「在宅療養中の子どもと家族の看護」(p.234～241) 在宅看護論：第1章A-4「あらゆる面からQOLを考える」(p.14～16)、第3章C「在宅看護の基本となるもの」(p.69～72)
		c 在宅療養継続のための家族支援	小児看護学 [1] (小児臨床看護総論)：第2章C「在宅療養中の子どもと家族の看護」(p.234～241) 在宅看護論：第2章C「家族」(p.39～50)、第7章E「小児の療養者に対する在宅看護の事例展開」(p.344～355) 家族看護学：第5章B「慢性期の小児患者の家族看護」(p.200～211)
	B 認知症の在宅療養者への看護	a 在宅療養継続のための療養者の健康危機管理	在宅看護論：第2章A-4-2「継続的な支援が必要な慢性的な療養状態」(p.34～35)、第6章B-6「認知機能のアセスメント法と援助技術」(p.216～222)
		b 療養者の自立支援とQOLの維持・向上(尊厳保持、成長、権利擁護<アドボカシー>を含む)のための在宅療養支援	在宅看護論：第1章A-4「あらゆる面からQOLを考える」(p.14～16)、第3章C「在宅看護の基本となるもの」(p.69～72)
		c 在宅療養継続のための家族支援	在宅看護論：第2章C「家族」(p.39～50)、第7章D「認知症の療養者に対する在宅看護の事例展開」(p.334～343)
	C 精神疾患がある在宅療養者への看護	a 在宅療養継続のための療養者の健康危機管理	精神看護学 [1] (精神看護の基礎)：第13章D-3「再発の危機をのりこえる」(p.305～310) 在宅看護論：第2章A-4-2「継続的な支援が必要な慢性的な療養状態」(p.34～35)
		b 療養者の自立支援とQOLの維持・向上(尊厳保持、成長、権利擁護<アドボカシー>を含む)のための在宅療養支援	精神看護学 [1] (精神看護の基礎)：第13章D-1「青年期の患者の地域生活を支える」(p.292～298)、D-2「複合的な問題をかかえた長期入院患者の退院を支援する」(p.298～305) 在宅看護論：第1章A-4「あらゆる面からQOLを考える」(p.14～16)、第3章C「在宅看護の基本となるもの」(p.69～72)
		c 在宅療養継続のための家族支援	精神看護学 [1] (精神看護の基礎)：第13章D-5「家族を支援する」(p.316～323) 在宅看護論：第2章C「家族」(p.39～50)、第7章J「統合失調症の療養者に対する在宅看護の事例展開」(p.400～408) 精神保健福祉：第5章A-2「精神科領域における地域移行支援・地域生活支援とは」(p.128～132)、B-3「家族支援」(p.141～144)
	D 難病がある在宅療養者への看護	a 在宅療養継続のための療養者の健康危機管理	在宅看護論：第2章A-4-2「継続的な支援が必要な慢性的な療養状態」(p.34～35) 公衆衛生：第7章F-3-1「生活支援・療養支援」(p.239～243)

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
7 在宅における医療管理を必要とする人と看護		b 療養者の自立支援とQOLの維持・向上(尊厳保持、成長、権利擁護<アドボカシー>を含む)のための在宅療養支援	在宅看護論：第1章A-4「あらゆる面からQOLを考える」(p.14~16)、第3章C「在宅看護の基本となるもの」(p.69~72) 公衆衛生：第7章F-3-1「生活支援・療養支援」(p.239~243)
		c 在宅療養継続のための家族支援	在宅看護論：第2章C「家族」(p.39~50)、第7章F「ALSで人工呼吸療法を実施する療養者の在宅看護の事例展開」(p.356~368)
	A 薬物療法	a 服薬状況の把握と管理	在宅看護論：第5章C-4-2「服薬の管理や残薬の確認」(p.147~148) 薬理学：第1章A-3-4「服薬に関する患者指導」(p.10~11) 臨床薬理学：第1章B-3-2「外来・在宅での医薬品の安全管理」(p.33~35)
		b 医師および薬剤師との連携	在宅看護論：第4章G「地域における多職種連携」(p.104~109)、第5章C-4-2「服薬の管理や残薬の確認」(p.147~148)
		c 糖尿病の管理	成人看護学 [6] (内分泌・代謝)：第6章C-1-c-3「看護活動」(p.246~271) 臨床薬理学：第4章C「インスリンの投与量の調整」(p.252~258)
	B 化学療法、放射線療法	a 外来通院中の在宅療養者に対する援助	基礎看護学 [4] (臨床看護総論)：第4章B-2「化学療法を受ける患者・家族への看護援助」(p.263~268)、C-2「放射線療法を受ける患者・家族への看護援助」(p.275~278) 在宅看護論：第6章C-9「外来がん治療の支援」(p.289~296)
	C 酸素療法	a 対象の特徴	成人看護学 [2] (呼吸器)：第4章C-2-3「在宅酸素療法」(p.113~114)、第6章D-2-2「在宅酸素療法」(p.252~254) 在宅看護論：第6章C-7「在宅酸素療法(HOT)」(p.276~281) 臨床外科看護総論：第3章B-3「在宅酸素療法と在宅人工呼吸療法」(p.109)
		b 機器の種類と原理	成人看護学 [2] (呼吸器)：第4章C-2-3「在宅酸素療法」(p.113~114)、第6章D-2-2「在宅酸素療法」(p.252~254) 在宅看護論：第6章C-7「在宅酸素療法(HOT)」(p.276~281)
		c 合併症の予防	成人看護学 [2] (呼吸器)：第4章C-2-3「在宅酸素療法」(p.113~114)、第6章D-2-2「在宅酸素療法」(p.252~254) 在宅看護論：第6章C-7「在宅酸素療法(HOT)」(p.276~281)
		d 安全管理と援助	成人看護学 [2] (呼吸器)：第4章C-2-3「在宅酸素療法」(p.113~114)、第6章D-2-2「在宅酸素療法」(p.252~254) 在宅看護論：第6章C-7「在宅酸素療法(HOT)」(p.276~281)
	D 人工呼吸療法(非侵襲的換気療法)	a 対象の特徴	成人看護学 [2] (呼吸器)：第4章C-3「人工呼吸療法」(p.114~119)、第6章D-3「人工呼吸器を装着する患者の看護」(p.254~269) 在宅看護論：第6章C-6「非侵襲的陽圧換気療法(NPPV)」(p.271~276)
		b 人工呼吸器の原理・構造	成人看護学 [2] (呼吸器)：第4章C-3「人工呼吸療法」(p.114~119)、第6章D-3「人工呼吸器を装着する患者の看護」(p.254~269) 在宅看護論：第6章C-6「非侵襲的陽圧換気療法(NPPV)」(p.271~276)、C-8「在宅人工呼吸療法(HMV)と排痰法」(p.282~289)
		c 気道浄化のケア	成人看護学 [2] (呼吸器)：第4章C-3「人工呼吸療法」(p.114~119)、第6章D-3「人工呼吸器を装着する患者の看護」(p.254~269) 在宅看護論：C-8「在宅人工呼吸療法(HMV)と排痰法」(p.282~289)
		d 合併症の予防	成人看護学 [2] (呼吸器)：第4章C-3「人工呼吸療法」(p.114~119)、第6章D-3「人工呼吸器を装着する患者の看護」(p.254~269) 在宅看護論：第6章C-6「非侵襲的陽圧換気療法(NPPV)」(p.271~276)、C-8「在宅人工呼吸療法(HMV)と排痰法」(p.282~289)
e 在宅における安全管理と援助		成人看護学 [2] (呼吸器)：第4章C-3「人工呼吸療法」(p.114~119)、第6章D-3「人工呼吸器を装着する患者の看護」(p.254~269) 在宅看護論：第6章C-6「非侵襲的陽圧換気療法(NPPV)」(p.271~276)、C-8「在宅人工呼吸療法(HMV)と排痰法」(p.282~289)	
E 膀胱留置カテーテル法	a 対象の特徴	在宅看護論：第6章C-2「尿道留置カテーテル」(p.240~246)	
	b 合併症の予防	在宅看護論：第6章C-2「尿道留置カテーテル」(p.240~246)	

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
		c 在宅における安全管理と援助	在宅看護論：第6章 C-2「尿道留置カテーテル」(p.240～246)
	F 胃瘻、経管・結腸栄養法	a 対象の特徴	成人看護学 [5] (消化器)：第6章 D-3「栄養療法・食事療法を受ける患者の看護」(p.311～319)、D-5「胃瘻・空腸瘻造設患者の看護」(p.329～332) 在宅看護論：第6章 C-4「経管栄養法」(p.254～265) 栄養学：第9章 B-1「経腸栄養法」(p.187～188)
		b 栄養剤の種類と特徴	在宅看護論：第6章 C-4「経管栄養法」(p.254～265) 栄養学：第9章 D「経腸栄養製品」(p.198～203) 栄養食事療法：第2章 B-2「経管・経腸栄養法」(p.24～26)
		c 栄養評価	在宅看護論：第6章 C-4「経管栄養法」(p.254～265) 栄養学：第7章「栄養状態の評価・判定」(p.128～146) 栄養食事療法：第2章 C「栄養アセスメントの基本」(p.26～30)
		d 合併症の予防	成人看護学 [5] (消化器)：第6章 D-3「栄養療法・食事療法を受ける患者の看護」(p.311～319)、D-5「胃瘻・空腸瘻造設患者の看護」(p.329～332) 在宅看護論：第6章 C-4「経管栄養法」(p.254～265) 栄養学：第9章 D-5「経腸栄養の合併症」(p.202～203)
		e 在宅における安全管理と援助	成人看護学 [5] (消化器)：第6章 D-3「栄養療法・食事療法を受ける患者の看護」(p.311～319)、D-5「胃瘻・空腸瘻造設患者の看護」(p.329～332) 在宅看護論：第6章 C-4「経管栄養法」(p.254～265)
	G 中心静脈栄養法	a 対象の特徴	成人看護学 [5] (消化器)：第6章 D-3「栄養療法・食事療法を受ける患者の看護」(p.311～319) 在宅看護論：第6章 C-5「在宅中心静脈栄養法(HPN)」(p.265～270) 栄養学：第9章 B-2「静脈栄養法」(p.188～189) 臨床外科看護総論：第3章 D-5-3「退院後の在宅栄養管理」(p.123)
		b 栄養剤の注入方法	在宅看護論：第6章 C-5「在宅中心静脈栄養法(HPN)」(p.265～270) 臨床薬理学：第4章 B-2「持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整」(p.243～251)
		c 栄養評価	在宅看護論：第6章 C-5「在宅中心静脈栄養法(HPN)」(p.265～270) 栄養学：第7章「栄養状態の評価・判定」(p.128～146)
		d 合併症の予防	在宅看護論：第6章 C-5「在宅中心静脈栄養法(HPN)」(p.265～270) 栄養学：第9章 E-2「静脈栄養の合併症」(p.204)
		e 在宅における安全管理と援助	成人看護学 [5] (消化器)：第6章 C-3-3「中心静脈栄養法」(p.306～307) 在宅看護論：第6章 C-5「在宅中心静脈栄養法(HPN)」(p.265～270)
	H 褥瘡管理	a 褥瘡発生のリスクアセスメントと予防	在宅看護論：第6章 C-1「褥瘡の予防とケア」(p.232～240)
		b 褥瘡のアセスメントと処置	成人看護学 [7] (脳・神経)：第6章 B-13「褥瘡の予防と看護」(p.301～306) 成人看護学 [12] (皮膚)：特論「褥瘡患者の看護」(p.245～266) 在宅看護論：第6章 C-1「褥瘡の予防とケア」(p.232～240)
		c 除圧・体位変換に関する器具の種類と選択	在宅看護論：第6章 C-1「褥瘡の予防とケア」(p.232～240)

目標Ⅲ. 地域包括ケアシステムにおける在宅看護の位置付けと看護の役割について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
8 療養の場の移行に伴う看護	A 医療機関との入退院時の連携	a 地域連携クリニカルパス	在宅看護論：第1章 B-2「対象者のケアニーズに応じた在宅看護の提供」(p.20～23)
		b 外来との連携	在宅看護論：第3章 B-2-b「退院支援のプロセスと退院支援に関するしくみ」(p.58～64)、B-3「入退院時における医療機関との連携」(p.64～67)
		c 病棟との連携	在宅看護論：第3章 B-2-b「退院支援のプロセスと退院支援に関するしくみ」(p.58～64)、B-3「入退院時における医療機関との連携」(p.64～67)



大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所	
		d 退院支援部門との連携	在宅看護論：第3章 B-2-b「退院支援のプロセスと退院支援に関するしくみ」(p.58～64)、B-3「入退院時における医療機関との連携」(p.64～67)	
		e 診療所との連携	在宅看護論：第3章 B-2-b「退院支援のプロセスと退院支援に関するしくみ」(p.58～64)、B-3「入退院時における医療機関との連携」(p.64～67)	
		B 施設との入退所時の連携	a 介護保険施設等の公的施設との連携	在宅看護論：第3章 B-4「入退所時における施設との連携」(p.67～69)、第4章 G「地域における多職種連携」(p.104～109)
		b サービス付き高齢者向け住宅等の民間施設との連携	在宅看護論：第3章 B-4「入退所時における施設との連携」(p.67～69)、第4章 G「地域における多職種連携」(p.104～109)	
9 地域包括ケアシステムにおける多職種連携	A 行政との連携	a 機関・職種の役割	在宅看護論：第4章 F-3「社会資源の活用」(p.102～103)、G「地域における多職種連携」(p.104～109)	
		b 双方向で行う連携の目的と看護の役割	在宅看護論：第4章 G「地域における多職種連携」(p.104～109)	
	B 地域包括支援センターとの連携	a 機関・職種の役割	在宅看護論：第4章 B「在宅看護にかかわる法令・制度」(p.78～84)、F-4「介護保険制度におけるケアマネジメント」(p.103～104)	
		b 双方向で行う連携の目的と看護の役割	在宅看護論：第4章 G「地域における多職種連携」(p.104～109)	
	C 居宅介護支援事業所との連携	a 機関・職種の役割	在宅看護論：第4章 D-3「訪問看護の利用までの手順」(p.95～96)、F-4「介護保険制度におけるケアマネジメント」(p.103～104)	
		b 双方向で行う連携の目的と看護の役割	在宅看護論：第4章 G「地域における多職種連携」(p.104～109)	
	D 介護サービス事業所との連携	a 機関・職種の役割	在宅看護論：第4章 C「介護保険制度」(p.84～90)	
		b 双方向で行う連携の目的と看護の役割	在宅看護論：第3章 C-5「多職種協働」(p.72)、第4章 G「地域における多職種連携」(p.104～109)	
	E 住民との連携	a ボランティア等の必要性と連携	在宅看護論：第1章 B-1「超高齢多死社会の進展と地域包括ケア」(p.17～20)、第4章 G-4「ネットワークづくり」(p.109)	
	10 在宅看護におけるケースマネジメント	A 看護が担うケースマネジメント／ケアマネジメントの概念	a サービスの統合、ケアの継続性	在宅看護論：第4章 F「ケアマネジメントと社会資源の活用」(p.100～104)
			b 残存機能の維持、向上	在宅看護論：第3章 C-2「自立・自律支援」(p.70～71)
			c 多様化したニーズへの対応	在宅看護論：第1章 B-2「対象者のケアニーズに応じた在宅看護の提供」(p.20～23)
			d 意思決定支援	在宅看護論：第3章 C-4「権利擁護」(p.71～72)
		B ケースマネジメント／ケアマネジメントの過程	a ニーズのアセスメント	在宅看護論：第4章 F「ケアマネジメントと社会資源の活用」(p.100～104) 社会保障・社会福祉：第8章 B-2-2「アセスメント(事前評価)」(p.231)
b ニーズに合わせたサービスの選択・計画			在宅看護論：第4章 F「ケアマネジメントと社会資源の活用」(p.100～104) 社会保障・社会福祉：第8章 B-2-3「援助計画の策定」(p.231～232)	
c サービスを結びつける調整			在宅看護論：第4章 F「ケアマネジメントと社会資源の活用」(p.100～104) 社会保障・社会福祉：第8章 B-2-3「援助計画の策定」(p.231～232)	
d 実施、モニタリング、評価、フィードバック			在宅看護論：第4章 F「ケアマネジメントと社会資源の活用」(p.100～104) 社会保障・社会福祉：第8章 B-2-4「援助計画の実施」(p.232)、B-2-5「モニタリング(結果評価)」(p.232)	
C 社会資源の理解と活用		a フォーマルサービスとインフォーマルサービス	老年看護学：第2章 B-2-3「高齢者とソーシャルサポート」(p.53～54) 在宅看護論：第4章 F「ケアマネジメントと社会資源の活用」(p.100～104) 社会保障・社会福祉：第4章 B-5-6「居宅介護支援と介護予防支援」(p.102～103)	